

# 05 超地域密着で住民と共にまちをつくる

立命館大学 理工学部 環境都市工学科  
金(キム)研究室 (都市地域デザイン研究室)

Challenge



## 直面している社会課題

### 地域の魅力が、埋もれたままになっている？

日本各地の街では、その土地の歴史・地形・自然などの「地政的な要素」が十分に活かされないまま開発が進んできました。住民どうしのつながりが薄れ、地域の魅力が埋もれてしまっています。また、琵琶湖のそばに暮らしながら湖に親しむ機会が少ないなど、豊かな自然資源があっても活かされていない現状があります。さらに人口減少が進む中、「利便性」だけでは選べないまちになる危機も迫っています。



## 解決のための取り組み



### 地域と一緒に、まちの未来を考える

立命館大学の金(キム)研究室では、地域の住民・行政・企業と一緒にチームを組み、実際に現場へ足を運ぶ「フィールドワーク型」のアプローチで課題に向き合います。

住民参加型のワークショップやまち歩き、イベントを企画・実施し、地域の人たちが自ら「まちの未来」を考える仕組みを作ります。また、楽しさと防災や自然再生を掛け合わせることで、参加のハードルを下げながら地域の底力を引き出していきます。

#### #知っておきたいキーワード

##### #コミュニティデザイン

物理的な施設や空間ではなく、ワークショップやイベントを通じて人々のつながりや関係性を設計し地域や組織が抱える課題を住民・関係者自らが解決できるよう支援する活動。

##### #フィールドワーク

大学の教室を離れ、現地へ赴いて実際の社会や自然を観察・調査・体験する研究活動。



## わたしたちの活動



CHECK  
1

### 東本願寺プロジェクト

京都・東本願寺前の市民緑地に設置されているにもかかわらず、ほとんど知られていなかった「かまどベンチ」。災害時にかまどとして使えるこのベンチを使って防災イベントを実施。焚き火体験を楽しみながら使い方を学べるよう、マルシェやキッチンカーと組み合わせ、参加しやすいイベントとして広く呼びかけました。



CHECK  
2

### 宝が池公園プロジェクト

京都最大の広域公園である宝が池での長期プロジェクト。里山の自然を守りながら公園を活用する方法に取り組み、間伐材の活用や収益化の仕組みを構築。ボトムアップの活動を通じて行政制度も改善しています。

## こんな未来を目指しています

### 人と人がつながり合えるまちづくりを。

利便性だけで選ばれるのではなく、「住んでいて面白い」「なんか居心地がいい」と思えるまちをつくることを目指しています。地域の自然・歴史・人といった資源を活かし、普段から住民同士がつながり支え合えるコミュニティを育てることが、いざという時の防災力にもなると考えています。「遊びたくなるまち並み」を合言葉に、行政・企業・住民と共に、街の未来をボトムアップで描いていきます。



## 投票先からメッセージ



### 今いる場所を、もっと面白くできる

「まちづくり」と聞くと、難しくて大人の仕事に聞こえるかもしれませんが、みなさんが子どもの頃に遊んだ公園や、地元の川や山、お気に入りの場所——それを「もっと面白くしたい」という気持ちが、まちづくりの出発点です。金研究室では、学生が実際に地域へ外向き、住民と一緒にアイデアを形にしています。大人になってから学ぶのではなく、今いる場所をもっとよくするために動けることがある。あなたの「地元が好き」という気持ちが、未来のまちを変える力になります。

立命館大学 金(キム)研究室一同